

アイスランド南部のエイヤフ
イヤトラヨークトル氷河の火山
が14日、大規模噴火しました。
噴煙は15キロ(編注・富士山の宝
永噴火は1707年)は推定約
20キロも上昇、欧州を中心に空
港閉鎖が相次ぎました。

1日約2万8千便のうち4分
の3以上が欠航という事態まで
進行、21日にとっとと運航が再開



され始めました。噴火の影響は
長期化すれば深刻な事態につな
がる恐れがでてきたのです。そ
れは気候への影響です。

具体的な例として挙げられる
のは1991年のフィリピン・
ピナトウボ火山。

20世紀最大の噴火として約5
億立方キの火山噴出物を記録
し、火山から数十キロ離れた周辺
都市域でも火山灰が5センチ以上も

堆積しました。

現在も雨が降るごとに山頂付
近から火山泥流が発生し、山麓
に流出する現象が継続していま
す。この先、恐らく100年以
上も続く長期化災害です。

この噴火によって、大量の二
酸化硫黄ガスを中心としたエア
ロゾル(空气中に微粒子が多数
浮かんだ状態)が成層圏に放出
され、地球規模で気温が約0・

気候に影響する長期の噴火

5度低下。同年の北半球の夏の
平均気温が例年に比べ、2度低
い冷夏となった地域も発生し、
農作物が不作で価格が世界的に
上昇しました。この二酸化硫黄
ガスのエアロゾルはくせ者で、
大量に吸うと呼吸器系の病気を
誘発します。

1783年6月のアイスラン
ド・ラキ火山の大噴火と隣接火

山の噴火(空气中に合計1・2
億トの二酸化硫黄ガスが噴出し
たと推定)は約8カ月続き、有
毒ガスを吸い込んだ欧州の住民
多数が死亡。イギリスでは8、
9月に約2万3千人が死亡した
と推定されています。

今回の噴火によって、仮に地
球規模で大量の有毒ガスが拡散
した場合、濃度が下がったとし
ても、ぜんそくなどの呼吸器系

の持病がある人にとっては、油
断のならない事態です。

そして忘れてはならないのは
コンピューターに対する影響。
ラップトップをはじめ大半のコ
ンピューターは空冷式です。
このエアロゾルが通気フィル
ターを通してコンピューター内
に侵入し基板に付着可能状況が
続くと、突然不具合が起こりま

す。

かつて、室内でこっそり喫煙
しながらコンピューターを使っ
ている(もちろんそれは禁止さ
れているが)人がおり、コンピ
ューターが突然ダウンするアク
シデントが発生しました。

よく調べてみると、たばこの
煙(これも空気中の湿気と結合
しエアロゾル化する)が内部基
板に付着して電子回路がリーク

(電流の漏れ)していたので
す。

今後、噴火が継続すれば欧州
のコンピューター群にこのよう
なアクシデントが起こらないと
もかぎりません。その場合、わ
が国も例外ではないことを心得
ておかなければなりません。

(河田恵昭・関西大学社会安
全学部長)